

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492100449	事業の開始年月日	令和1年10月1日
		指定年月日	令和1年10月1日
法人名	株式会社 アプルール		
事業所名	ソレスタ大船栗田		
所在地	(247-0051) 神奈川県 鎌倉市 岩瀬 1-10-21		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年1月11日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

保護犬を社員犬に迎え、ドッグセラピーを行っています。いつくしみの思草マニュアルを用いて、社員勉強会を行っており、私もあなたも住みたいホームを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年2月16日	評価機関 評価決定日	令和5年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR「大船」駅北口（笠間口）から徒歩15分ほどの所にあります。周囲は集合住宅や、一般住宅が立ち並ぶ住宅地です。近隣に大型スーパー、大学、桜並木の砂押川プロムナード、公園などがあります。

<優れている点>

利用者一人ひとりが意欲的に日々の生活を送れるように、関係機関とも連携しながら、利用者本位のケアを心がけています。日々の状況を職員間で確認しています。利用者各人が望む事や役割を持って出来る事、好きな事など意向の把握に努め、希望や満足、喜びを感じられるように援助しています。自治会に加入しており、地域との交流を大切にしています。地域の行事や、事業所の納涼祭などで住民と交流したり、近隣の高齢者施設や、法人系列の施設との定期的な交流や、ボランティア訪問活動があります。一時コロナ禍のため活動が減っていましたが、また機会が増えてきています。事業所は法人理念「いつくしみの思草」をもとに毎月職員研修や勉強会を実施し、職員の介護のスキルアップと人材の育成、サービスの質の向上に取り組んでいます。

<工夫点>

利用者の充実した楽しい生活の実現のため、ドッグセラピー、アロマセラピー、コグニサイズ（頭を使いながら同時に身体を動かす運動）、イベントなどを積極的に取り入れています。ホーム犬は利用者と一緒に生活をし、アロマオイルは朝夕、違う香りを嗅ぐことで効果が上がり、利用者も香りを楽しんでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ソレスタ大船栗田
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝ミーティング時に理念、スタッフミッション、心に留める2つの事を唱和し、新人研修時はいつくしみの思草マニュアルを用いて理念の共有と実践を行っている。	運営法人の理念、事業所の目指す方針を毎朝唱和し、実践を意識して業務にあたっています。各会議、研修、職員面談、申し送り時などで確認しあい、「いつくしみの思草」の理解を深めています。その人らしく、安心して過ごせるように支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナもあり交流は少なくなっているが自治会にも加入し、傾聴ボランティアや慰問等、状況を見て地域の方と交流させて頂いている。コロナ禍前は納涼祭、お祭りの参加等ご近所との交流を楽しんでいた。	例年、自治会の催事に参加したり事業所の行事等で地域住民と交流していました。様々な活動のボランティアが来ていました。コロナ禍では機会も減っていましたが、今年度は傾聴ボランティアや手品、ハワイアンなどのボランティア来訪があり皆で楽しめる機会を再開しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	スタッフは認知症サポーターやキャラバンメイトの資格を持ち、認知症サポーター養成講座の講師を務めるなどの活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様・地域包括支援センター・市役所の担当者さんをお呼びし意見交換を行っている。現在はコロナの情勢により書面での報告が多かったが、その中でも家族様から御意見や要望を伺い取り入れる事が出来ている。	運営推進会議に介護保険課職員、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、利用者家族が参加しています。コロナ禍で対面会議は休止しており、書面でサービス実施の報告や情報交換、意見交換を行い質の向上に努めています。近日中に対面会議再開予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	鎌倉市役所担当者さんに、コロナ対応やサービスの取り組みをお伝えする機会を持っている。書類送付時にはホームに対する御意見やアドバイスを伺っている。また生活保護の方の担当者さんへのご報告も行っている。	行政の各担当部署と日ごろから協力関係があり、事業所のサービス実施内容の報告や意見交換などを行っています。かまくら地域介護支援機構主催の研修に参加しています。例年、鎌倉市と市内グループホームで協働し開催してきたイベントで連携が出来ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の正しい知識を学んでいる。身体拘束禁止委員会を2か月に1度開催し周知徹底に努めている。防犯の観点から玄関は施錠を行っている。	身体拘束ゼロへの手引きがあります。研修で定期的に理解を深めています。身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催し、話し合った内容を丁寧に議事録に残しています。利用者の生活パターンや行動を十分把握し、環境や支援の仕方の工夫をしたり、利用者への対応を確認し合っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会と身体拘束禁止委員会を行っている。	高齢者虐待防止の手引き、高齢者虐待対応マニュアルがあります。虐待や身体拘束に関する勉強会を行っています。年2回「チェックシート」を利用し、自己点検しています。無意識に行う対応や言葉かけなども職員間で確認しあっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎年の勉強会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明を行い不安な点や疑問点には繰り返し説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	お客様ご意見箱やお客様相談室を用意している。お手紙や訪問時等何でも言える雰囲気作りに留意している。お客様アンケートを送付し、ご意見があった場合はすぐに対応している。	利用者や家族の意見、要望などをケアプランや、事業所の運営に反映しています。コロナ禍で散歩等ができない時期の家族意見を反映し、中庭にテラスを作っています。テーブルやイスも設置し、ホーム犬と一緒に日光浴・外気浴を楽しむ場となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット毎や全体ミーティングにて意見交換を行い運営に反映させている。	各会議、研修、打ち合わせ、日誌等の記録書類、面談などで職員の意見や提案を聞いています。日常の会話からも職員の希望や提案を聞いています。運営に関する改善策や、利用者がその人らしい生活が送れるような取り組みを積極的に取り入れています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ステップアップ制度・トレーナー制度・社員登用制度を設けている。報奨金制度を設け入居率に応じて報奨金の支給を行っている。	運営法人は「スタッフの成長」「仕事を楽しむマネジメント」を方針の一環として明示しています。介護関連以外でも職員が興味を持った資格取得への補助金制度があります。各職員の能力を活かし、サービス向上に意欲が持てるように配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日々のOJTを行いながら、ホーム長には週間マネジメントとして月曜日に今週の実績と来週の予定について部長に報告する仕組みがある。新人に対しては研修プログラムにて技術面や関わり方を指導している。	「5つの経営特徴」に基づいた人材を育成しています。OJTによる指導を行っています。法人主催の研修、事業所内の勉強会・研修を定期的実施しています。職員は1日の行動目標を意識し、事業所として1週間の振り返りを行い次の目標に繋げています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ステップアップ制度を使い各種勉強会や研修会に参加できる仕組みを作っている。各種研修会を本社でも行っており、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始時はご本人様との対話の時間を増やして信頼関係を築き、ご要望や不安な事などの解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様のご希望等、事前アセスメント時は今までの生活歴を含め、今後のホームでの生活について不安が残らない様、十分に時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居にあたり、ご本人様の状況に合わせて希望日や体験入居（7日）の調整を行い、相互にとってより良い生活になるかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯・掃除・洗い物・調理や時間の過ごし方も含めて、自身の想いやお友達関係を大切に考え、出来る事はなるべく行っていただけるよう支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様の以前の役割を大切にし、ご家族様・ご親戚様のお祝い事等の会合の出席への参加をサポートしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご希望があれば、ご友人の方の面会や外出の希望に沿えるよう配慮している。（現在はコロナ禍にあり自粛をお願いしている）	知人や友人との面会や直接の交流はコロナ禍のため減っていますが、電話、手紙で交流を継続しています。これまでと同じ日常生活が送れるように、馴染みの店舗へ行ったり、習い事の外出などは、本人の希望に沿うように対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	夜間の女子会や、お友達同士の交流など密にならない範囲での居室への行き来も含め、配慮を行っている。また、利用者同志の関係性がうまくいくように情報連携し調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご退去後やご逝去後もお家族様よりお手紙を頂いたり、季節の変わり目にお手紙を出している。また、お誕生日や記念日にビデオメッセージを送っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様・ご本人様の意向に沿える様に配慮している。日々の関わりの中で言葉や表情から真意を把握し意向に添える様に配慮している。	入居前の本人・家族からの事前アセスメントや入居後の本人の言葉や仕草から意向を汲み取っています。生活の中で、利用者が掃除・洗濯物干しや取り込み、たたみ・食事の準備、食器洗いなどに時間になると始めるなど積極的に参加しています。趣味も継続して行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前アセスメント時は今までの生活歴を含め、今後どのような支援が必要か把握・検討を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や業務日誌での情報共有を行い、利用者にとって現在どのようなケアが必要かの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	医療関係者への状態報告、家族様へのきめ細かな報告と、今後のご希望を伺い、ご本人様のより良いケアについて検討を行っている。	計画作成担当者は、ケアカルテ・業務日誌・連絡帳や職員からの聞き取りで毎月モニタリングを行います。個別対応の支援方法を連絡帳に記載を徹底し、その経過状況も皆で共有するようにしています。計画変更時は本人・家族へ説明し同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、情報の共有を行っている。毎回、申し送り等確認し業務に入っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎日のミーティングで特変の報告を受けた際は、その場で対応方法について協議を行い、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご家族様・ご友人・訪問リハや訪問診療などを含め、地域資源を限定せずに豊かな生活を楽しめるよう助言や利用を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ時は診療に付き添いを行い、外部の通院が必要な時にも付き添いを行い、ご家族に報告を行う事で安心して医療を受けられる様支援している。	24時間オンコール体制の協力医療機関では、体調が不安定な場合に、緊急時の往診を受けることができ安心な医療体制となっています。歯科は週1回、精神科は月に1回、看護師は週に1回訪問して、健康管理を行っています。今までのかかりつけ医を選択する事も可能です。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に報告書を提出し、適切な治療につなげられる様、支援している。訪問看護師には往診時の送りを伝え適切な治療に繋げられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際の付き添い・面会時の状況確認・SWとの連携・病院のカンファレンスに参加し退院時のケアに反映させている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際、終末期はこまめにお話合いの場を設け、ご本人様・ご家族様の希望に添える様配慮している。その際のケアについてはスタッフ・コンフォート北鎌倉台クリニック医師・看護師を含めチームでの支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの同意書を交わしています。重度化した時は、医師の説明後に家族の意思を確認して、看取りを行います。コロナ禍でも、家族の面会や宿泊を受け入れ、本人・家族に寄り添うケアに努めています。退去される時は、事業所（家）から皆で見送りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	勉強会を開催し、救急対応や事故発生に備えている。またチャートを事務所に貼り、慌ててしまっても対応できる様にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行っており、利用者の避難経路・AEDの操作方法・救急対応の確認を行っている。	年2回の利用者を含めた避難訓練の内、1回は夜間想定をしています。電話の緊急連絡網とグループラインを利用する緊急連絡もあります。AEDの操作方法の研修も行っています。災害備蓄・備品は法人が一括して購入して事業所がリスト表で管理しています。	災害のシチュエーションを想定した訓練を行う事で、実際の職員体制に即した訓練を行う事を期待します。災害備蓄・備品は1日分を明確にする事や、災害時の職員間の連絡方法などの視覚化を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個室に入室の際はノックをし履物を脱いで訪室しておりプライバシーへの配慮を行っている。特に入浴介助等は同性介助にておこなっている。	創業者の「いつくしみ思草」と、利用者を「シニア様」と呼ぶ事で、認知症が進行しても、人格を尊重する対応を基本としています。利用者は苗字にさん付けで呼び、苗字が同じ時は本人・家族の同意を得て、名前にさん付けで呼んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	耳が聞こえにくい方にはホワイトボードを利用する。動作の前には必ず声掛けを行いご利用者の自己決定を大切にケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調やお気持ちを大切にしながら入浴や行事への参加を決めて頂いている。食事時間も時間を区切らずマイペースで召し上がって頂くなど柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴前には一緒に着替えを選び、起床時にもカーディガンやは織物を一緒に選ぶなどの配慮を行っている。また訪問美容ではご本人の希望でカラー・カット・パーマなど自由に行えるように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみ食や、寿司の日など食事が楽しみになる様に工夫している。食後の洗い物は出来る方をお願いしている。	利用者は、生活の中で盛り付けや食器洗い・配膳などを手伝えることで役割を持っています。主食はご飯を中心にしてはいますが、パン食も取り入れています。毎週火曜日のお楽しみ食、月1回の鯨の日、月2回の行事食、誕生日会の手作りケーキなど、食べる事を楽しめるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	常食・お粥・きざみ・超刻み・ミキサー食・とろみ食・禁食（魚・肉など）の登録を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い訪問歯科からアドバイスをもらい適切なケアができる様連携している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて定時にお声掛けしたり尿意の様子を察知し、トイレにお誘いして自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握して、声掛けのタイミングやトーンに気を付けて誘導しています。早めの声掛けにより、退院後にリハビリパンツだった人が布パンツに改善した事例もあります。座位がとれる人は、トイレでの排泄を目標にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	好きなお飲み物を用意する事で水分補給を行う。飲み込みが悪い方へはトロミをつけたりゼリーの用意、体操や散歩など便秘予防を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤の用意・季節のゆず湯、足湯など入浴を楽しむ工夫を行っている。	週2回午前中に入浴していますが、午後に入浴する事も可能です。座位が可能な人は機械浴で入浴しています。湯は毎回入れ替え清潔保持に努めています。入浴を嫌がる人には、声掛けの方法や、歩きながら何気ない誘導をするなど工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の現在の就寝時間だけではなく、その日のよっての対応を声掛けして行っており、就寝時間・起床時間は決めていない。日中、様々な活動を行うことによって夜就寝し生活リズムが整うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を事務所内に設置しておりスタッフが目を通せるようになっている。服薬内容に変更があった場合は往診記録を全員で目を通し申し送りを行う様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様の経験や知恵を發揮出来る場面を作ったり、お願い出来るような仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人様やご家族様のご希望があれば外出支援を行っている。散歩や外気浴、初詣、植物園など状況を見て外出支援しています。	桜の花見や、イングリッシュガーデンで花の観賞もしています。外出時にファストフードを食べるなどの楽しみも取り入れています。コロナ禍により外出制限がかかる中、事業所中庭のテラスでの外気浴の時間を増やしています。本人希望の図書館や店への個別支援も行っています。公園や近隣の散歩も行い、近所の神社への初詣にも行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族ごとに様々な意向を持っているが、ご本人様の安心感や満足に向けてご家族様と相談し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を持参され居室で電話をされる際は支援を行っている。事務所での電話も支援にて取次ぎを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	床はフローリング・照明は家庭と同様のシャンデリアやダウンライトなどを利用しており、カレンダー作りレクリエーションを取り入れ、季節の生花を飾るなどの工夫を行っている。玄関や食堂ではアロマオイルを活用するなど工夫をしている。	アロマオイルを使用しリラックスできるような工夫をしています。リビングの床暖房で温度調節が難しい利用者も快適に過ごせるように配慮しています。定期的に行う換気や空気清浄機の設置で、温度・湿度の管理をしています。みんなで制作した作品を壁面に飾ることで季節を感じるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	完全個室の居室の他、エレベーター前のくつろぎスペース・食堂にはソファや椅子を設置して、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、住み慣れたご自宅から家具のお持ち込みを提案しており、ベッドカバーや仏壇、クローゼットなど思い思いの家具の持ち込みをして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内に、トイレや洗面台も完備しています。自宅から馴染みのタンス・ベッドカバー・イス・仏壇、家族の写真や小物を持ち込んで、過ごしやすい居室の配置にしています。居室の掃除やシーツ交換も職員と行う人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯物や掃除、買い物などできることを活かしてご自身の残存機能の温存に努めている。ご本人にとってどうしたら出来るかを追求し、環境整備に努める。また、状況に応じて話し合い改善し自立支援に繋げていく。		

事業所名	ソレスタ大船栗田
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝ミーティング時に理念、スタッフミッション、心に留める2つの事を唱和し、新人研修時はいつくしみの思草マニュアルを用いて理念の共有と実践を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナもあり交流は少なくなっているが自治会にも加入し、傾聴ボランティアや慰問等、状況を見て地域の方と交流させて頂いている。コロナ禍前は納涼祭、お祭りの参加等ご近所との交流を楽しんでいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	スタッフは認知症サポーターやキャラバンメイトの資格を持ち、認知症サポーター養成講座の講師を務めるなどの活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様・地域包括支援センター・市役所の担当者さんをお呼びし意見交換を行っている。現在はコロナの情勢により書面での報告が多かったが、その中でも家族様から御意見や要望を伺い取り入れる事が出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	鎌倉市役所担当者さんに、コロナ対応やサービスの取組みをお伝えする機会を持っている。書類送付時にはホームに対する御意見やアドバイスを伺っている。また生活保護の方の担当者さんへのご報告も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の正しい知識を学んでいる。身体拘束禁止委員会を2か月に1度開催し周知徹底に努めている。防犯の観点から玄関は施錠を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会と身体拘束禁止委員会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎年の勉強会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明を行い不安な点や疑問点には繰り返し説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	お客様ご意見箱やお客様相談室を用意している。お手紙や訪問時等何でも言える雰囲気作りに留意している。お客様アンケートを送付し、ご意見があった場合はすぐに対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット毎や全体ミーティングにて意見交換を行い運営に反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ステップアップ制度・トレーナー制度・社員登用制度を設けている。報奨金制度を設け入居率に応じて報奨金の支給を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日々のOJTを行いながら、ホーム長には週間マネジメントとして月曜日に今週の実績と来週の予定について部長に報告する仕組みがある。新人に対しては研修プログラムにて技術面や関わり方を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ステップアップ制度を使い各種勉強会や研修会に参加できる仕組みを作っている。各種研修会を本社でも行っており、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始時はご本人様との対話の時間を増やして信頼関係を築き、ご要望や不安な事などの解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様のご希望等、事前アセスメント時は今までの生活歴を含め、今後のホームでの生活について不安が残らない様、十分に時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居にあたり、ご本人様の状況に合わせて希望日や体験入居（7日）の調整を行い、相互にとってより良い生活になるかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯・掃除・洗い物・調理や時間の過ごし方も含めて、自身の想いやお友達関係を大切に考え、出来る事はなるべく行っていただけるよう支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様の以前の役割を大切にし、ご家族様・ご親戚様のお祝い事等の会合の出席への参加をサポートしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご希望があれば、ご友人の方の面会や外出の希望に沿えるよう配慮している。（現在はコロナ禍にあり自粛をお願いしている）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	夜間の女子会や、お友達同士の交流など密にならない範囲での居室への行き来も含め、配慮を行っている。また、利用者同志の関係性がうまくいくように情報連携し調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご退去後やご逝去後もご家族様よりお手紙を頂いたり、季節の変わり目にお手紙を出している。また、お誕生日や記念日にビデオメッセージを送っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様・ご本人様の意向に沿える様に配慮している。日々の関わりの中で言葉や表情から真意を把握し意向に添える様に配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前アセスメント時は今までの生活歴を含め、今後どのような支援が必要か把握・検討を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や業務日誌での情報共有を行い、利用者にとって現在どのようなケアが必要かの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	医療関係者への状態報告、家族様へのきめ細かな報告と、今後のご希望を伺い、ご本人様のより良いケアについて検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し、情報の共有を行っている。毎回、申し送り等確認し業務に入っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎日のミーティングで特変の報告を受けた際は、その場で対応方法について協議を行い、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご家族様・ご友人・訪問リハや訪問診療などを含め、地域資源を限定せずに豊かな生活を楽しめるよう助言や利用を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療・訪問歯科・訪問リハビリ時は診療に付き添いを行い、外部の通院が必要な時にも付き添いを行い、ご家族に報告を行う事で安心して医療を受けられる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に報告書を提出し、適切な治療につなげられる様、支援している。訪問看護師には往診時の送りを伝え適切な治療に繋がられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際の付き添い・面会時の状況確認・SWとの連携・病院のカンファレンスに参加し退院時のケアに反映させている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際、終末期はこまめにお話合いの場を設け、ご本人様・ご家族様の希望に添える様配慮している。その際のケアについてはスタッフ・コンフォート北鎌倉台クリニック医師・看護師を含めチームでの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会を開催し、救急対応や事故発生に備えている。またチャートを事務所に貼り、慌ててしまっても対応できる様にしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行っており、利用者の避難経路・AEDの操作方法・救急対応の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個室に入室の際はノックをし履物を脱いで訪室しておりプライバシーへの配慮を行っている。特に入浴介助等は同性介助にておこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	耳が聞こえにくい方にはホワイトボードを利用する。動作の前には必ず声掛けを行いご利用者の自己決定を大切にケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調やお気持ちを大切にしながら入浴や行事への参加を決めて頂いている。食事時間も時間を区切らずマイペースで召し上がって頂くなど柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴前には一緒に着替えを選び、起床時にもカーディガンや織物を一緒に選ぶなどの配慮を行っている。また訪問美容ではご本人の希望でカラー・カット・パーマなど自由に行えるように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみ食や、寿司の日など食事が楽しみになる様に工夫している。食後の洗い物は出来る方をお願いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	常食・お粥・きざみ・超刻み・ミキサー食・とろみ食・禁食（魚・肉など）の登録を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い訪問歯科からアドバイスをもらい適切なケアができる様連携している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて定時にお声掛けしたり尿意の様子を察知し、トイレにお誘いして自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	好きなお飲み物を用意する事で水分補給を行う。飲み込みが悪い方へはトロミをつけたりゼリーの用意、体操や散歩など便秘予防を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤の用意・季節のゆず湯、足湯など入浴を楽しむ工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の現在の就寝時間だけではなく、その日よっての対応を声掛けして行っており、就寝時間・起床時間は決めていない。日中、様々な活動を行うことによって夜就寝し生活リズムが整うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を事務所に設置しておりスタッフが目を通せるようになっている。服薬内容に変更があった場合は往診記録を全員で目を通し申し送りを行う様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様の経験や知恵を發揮出来る場面を作ったり、お願い出来るような仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人様やご家族様のご希望があれば外出支援を行っている。散歩や外気浴、初詣、植物園など状況をみて外出支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族ごとに様々な意向を持っているが、ご本人様の安心感や満足に向けてご家族様と相談し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を持参され居室で電話をされる際は支援を行っている。事務所での電話も支援にて取次ぎを行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	床はフローリング・照明は家庭と同様のシャンデリアやダウンライトなどを利用しており、カレンダー作りレクリエーションを取り入れ、季節の生花を飾るなどの工夫を行っている。玄関や食堂ではアロマオイルを活用するなど工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	完全個室の居室の他、エレベーター前のくつろぎスペース・食堂にはソファや椅子を設置して、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、住み慣れたご自宅から家具のお持ち込みを提案しており、ベッドカバーや仏壇、クローゼットなど思い思いの家具の持ち込みをして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯物や掃除、買い物などできることを活かしてご自身の残存機能の温存に努めている。ご本人にとってどうしたら出来るかを追求し、環境整備に努める。また、状況に応じて話し合い改善し自立支援に繋げていく。		

2022年度

事業所名 ソレスタ大船栗田
 作成日： 令和5年 4月25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	夜間帯での避難訓練の実施。夜勤者のみで安全に避難誘導が出来るかが課題。3月に避難訓練を実施したが15時頃に行った。	夜間帯の夜勤者のみしかいない状況で安全に避難誘導が出来る。	夜間帯に火事の想定で避難訓練を行う。手順の確認をし、暗い中で避難に必要な時間を認識する。	3～4ヶ月
2	16	災害時に必要な備蓄、備品の必要な数を明確にし、準備する。	必要な備蓄、備品を確保する。	一日に必要な備蓄、備品を見直し本社と調整中です。	1～2ヶ月
3	16	災害時の職員体制。	災害時の職員体制の視覚化をする。	ラインワークスを導入し、職員の安否確認や勤務体制の視覚化を行った。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月